

令和6年5月10日

市民文教委員会

博物館

浜松市博物館資料紛失に係る対策の進捗について

1 概要

令和4年3月25日に公表した浜松市博物館資料（備品）紛失に係る対策について、令和5年度に本館収蔵資料の全点確認を完了させるとともに、リニューアルの基本構想を作成し、収蔵環境を含めた博物館の今後の在り方を検討した。

2 対応状況

(1) 組織改編

- ・令和6年度から博物館を1種事業所とし、組織体制を充実

(2) 資料点検（令和4年度～5年度、本館資料について悉皆点検）

- ・博物館本館の資料179,951点を悉皆点検（受入簿や電子台帳と照合、台帳の不備を確認）
- ・紛失資料6点のうち4点（浜松城二の丸絵図など）を確認、2点は備品台帳を修正

資料の詳細

番号	資料名及び員数	探索状況	備考
1	東海道名所図会 1組	令和3年12月10日現物確認	
2	遠州五千石御替地図（川東領） 1枚	令和4年8月16日現物確認	
3	遠州浜名五千石図（浜名領） 1枚	令和4年8月16日現物確認	
4	浜松城二の丸絵図 1枚	令和4年8月16日現物確認	令和5年度限定公開
5	伊勢暦 45冊のうち1冊	現物未確認	備品台帳の修正
6	金原明善書簡 1通	現物未確認	備品台帳の修正

- ・収蔵庫整理 考古資料（開発に伴う発掘調査出土品）の文化財課移管

(3) 博物館リニューアル基本構想（令和5年度作成）における今後の在り方検討

- ・資料管理、調査研究、展示、教育普及、施設運営管理に対する現状と課題の整理
- ・社会的変化（博物館の新たな役割、社会的潮流）への対応検討
- ・基本理念「つなぐ・つながる・つなげる博物館」の提示【別紙1・2】
- ・蜷塚遺跡再整備との一体的な事業推進

3 今後のスケジュール

- ・令和6年度 博物館展示手法の検討
- ・令和6年度～令和8年度 収蔵品詳細整理（把握不十分な資料目録等を作成）
- ・令和9年度以降 分館等の収蔵品整理
- ・電子台帳はデータ構築が不十分であることから、今後の整備計画を別途検討する

浜松市博物館リニューアル基本構想（案） < 概要版 >

1. 基本構想策定の背景

■ 策定の目的

- ・開館から40年以上が経過したことによる施設・設備の老朽化、収蔵スペースの不足、ユニバーサルデザイン非対応等の諸問題の解消を図る
- ・博物館に求められる役割や機能の増加（市民の意識や行動様式の多様化、デジタル技術の普及等）へ対応する
- ・隣接する史跡蛸塚遺跡が進められている再整備事業との連携・整合を図ることにより相乗的な効果を狙う

■ 利用状況とニーズの調査

利用状況

- ・リピート率が低い
- ・50歳代以上の利用が多い
- ・周辺地域居住者の利用が多い
- ・蛸塚遺跡へ来ても入館しない人が多い
- ・歴史系観光施設からの回遊率が低い

ニーズ

- ・施設はキッズコーナーやカフェ、事業は体感的な展示、体験学習、希少な資料の展示などのニーズが高い

■ 資料紛失再調査委員の提言

令和4年に博物館資料紛失を受けて設置された資料紛失再調査委員による再発防止策の提言

- ・効率的な管理方法の構築
- ・台帳の適切な整備と電子化の推進
- ・収蔵庫の増設
- ・セキュリティの強化
- ・資料の活用推進
- ・組織の一体感の醸成
- ・職員の専門性と倫理観の向上
- ・職員の適切な配置 等

■ 現状と課題

資料収集・管理

- ・収蔵スペースの不足
- ・収蔵庫の温湿度管理機能が不十分
- ・バックヤードの広さや機能が不十分
- ・収蔵庫内や電子台帳の整理不足 等

調査研究

- ・調査研究や書庫のスペースが不足
- ・学芸員の数と専門性の不足 等

展示

- ・常設展に併合した地域の内容が不足
- ・常設展に体感型展示の不足
- ・特別展示室の温湿度管理機能が不十分
- ・照明やケース等設備の老朽化 等

教育普及

- ・講座や体験学習のスペースが不足
- ・同じような内容になりがち
- ・図書が市民に活用されていない 等

情報公開・発信

- ・オンラインに対応した機能の不足 等

連携・協働

- ・連携・協働先の固定化・高齢化 等

施設全般

- ・ユニバーサルデザインに非対応
- ・雨漏りや設備の老朽化による不具合
- ・全体的に暗く憩いのスペースも不足
- ・蛸塚遺跡との往来がしにくい 等

2. 基本的な考え方

■ 基本理念

つなぐ・つながる・つなげる博物館

■ 目指す姿

① 【つなぐ ～継承～】

浜松の多様な歴史文化を発見し、守り、伝え、未来につなぐ博物館

博物館基盤機能の向上を図る

- ・浜松の歴史文化を象徴する資料を収集し、消失や散逸を抑制する
- ・収蔵環境の改善により、長期的かつ安定的に資料を保管する
- ・調査研究機能の充実により、浜松の歴史文化の本質的な価値を見出す
- ・展示公開、教育普及等を通じて、浜松の歴史文化を正しく伝える
- ・人員体制の最適化と施設の再整備により、安定的で持続性のある博物館の運営を行う

② 【つながる ～連携～】

歴史を軸にして、ヒト・モノ・コトが繋がる博物館

誰でも利用しやすい環境を提供し、交流や連携を促進する

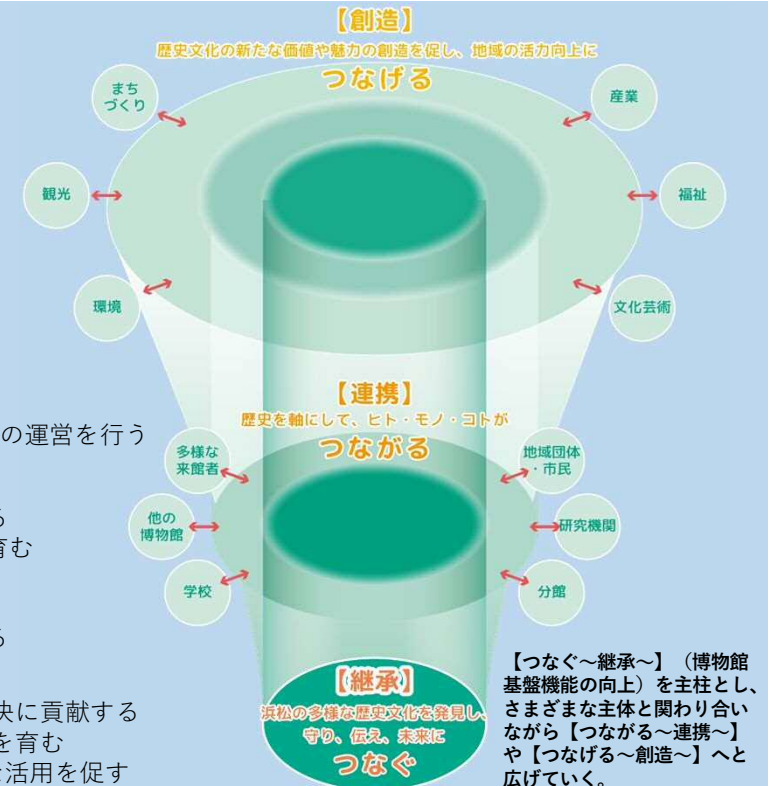
- ・ユニバーサルデザインの推進により、誰もが利用しやすい環境を提供する
- ・各年代に向けて多様な学びの場を提供し、浜松の歴史文化を愛する心を育む
- ・地域団体や市民に活動の場を提供し、歴史文化を軸とした交流を促す
- ・他の博物館や学校、研究機関等との連携を深め、事業の質を高める
- ・アウトリーチや分館の活動により、地域の歴史文化の価値や魅力を伝える

③ 【つなげる ～創造～】

歴史文化の新たな価値や魅力の創造を促し、地域の活力向上につなげる博物館

社会から求められる博物館の役割や機能の多様化・高度化に 대응していく

- ・まちづくり、産業、観光等、他ジャンルと協働し、地域の振興や課題解決に貢献する
- ・調査研究成果を広く市民に還元し、歴史文化の保存活用を支える担い手を育む
- ・デジタル化やICTにより、資料や情報を広く分かち合い歴史文化の多様な活用を促す
- ・ユニークベニューを推進し、歴史文化の発信と新たな魅力の創造を促す
- ・隣接する蛸塚遺跡をはじめ、地域の文化財や文化施設等との回遊性を高める



■ 浜松市博物館の将来イメージ

3.施設整備方針の検討

■ターゲットの設定

- ①引き続きターゲットとする対象
子供、家族連れ / 歴史に関心が高い中高年層
- ②新たにターゲットとする対象
若年層（中学生から20代） / 市外からの観光客

■施設設備の基本方針

- ①貴重な博物館資料を適切に保存し、積極的に公開・活用する
- ②12市町村合併後の浜松市の歴史・文化を体系的に紹介する
- ③蛸塚公園との一体的整備・運用を行い、相乗効果を発揮する
- ④誰でも気軽に立ち寄りやすく、日常的に利用できる環境を整備する
- ⑤ユニバーサルデザインに対応した施設を整備する

■必要となる機能

公開エリア

- ・教育普及機能 体験学習や講座を行う機能 等
- ・学習・交流機能 図書の閲覧機能、情報交換や交流機能 等
- ・史跡ガイダンス機能 蛸塚遺跡を紹介・発信する機能 等
- ・付帯機能 休憩・飲食機能、物販機能、会合を行う機能 等
- ・共用機能 案内・受付、駐車、エレベーター、トイレ 等

展示エリア

- ・常設展示を行う機能、企画展示を行う機能 等

収蔵エリア

- ・資料収蔵機能、資料の清掃・燻蒸・整理等を行う機能
- ・トラックヤード、荷解きスペース、エレベーター 等

管理運営エリア

- ・職員等が執務や会議を行う機能、学芸員の調査研究機能
- ・図書や各種資料を保管・閲覧する機能、写真撮影機能
- ・備品、資材、文書等を保管する機能 等

■施設の機能配置と整備規模

現状の課題を解消するため、以下の案から最適なものを今後検討する。

- A案：既存建物のみ改修
- B案：既存建築の改修＋収蔵庫棟の新設
- C案：既存建物の増築＋収蔵庫棟の新設
- D案：既存建物を解体して建て替え
- E案：A～D案＋第2駐車場付近への別棟の新設

4.展示方針の検討

■展示整備の基本方針

- ①ターゲットやテーマ、目的に応じた展示を用意する
- ②史跡蛸塚遺跡のガイダンス機能を強化する
- ③体感性を重視した展示手法を積極的に採用する
- ④ICTや先端のデジタル技術等を積極的に活用する
- ⑤市民やNPO、研究機関等との連携・交流を促進する
- ⑥重要文化財の借用及び展示を可能とする展示環境を整備する

■常設展示の展示構成

具体的な展示コンセプトやテーマは、基本計画以降に検討する。また、展示構成は以下の中から最適なものを採用する。

①通史展示

現在の展示構成と同様に時代区分に沿って展示を構成

②空間を軸にしたテーマ展示

山（市北部）や海（浜名湖・遠州灘）、川（天竜川等）、都市（市中心部等）など、地域の特徴的な空間をテーマに展示を構成

③個別の事象を取り上げたテーマ展示

地域を代表する歴史事象や生活文化、民俗などをまとめた任意のテーマに沿って展示を構成。

④通史展示とテーマ展示を複合した構成

通史展示を軸に、各時代に個別の事象を取りあげたテーマ展示を挿入。

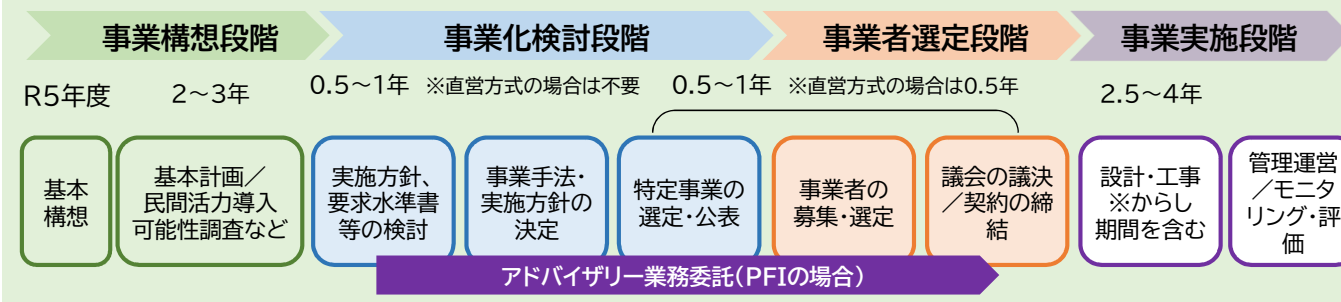
■多様な観覧者への対応

幅広い年齢層の市民や観光客、外国人、障害者など、多様な観覧者を想定することにより、誰もが利用しやすい展示環境の整備を目指す。

6.今後のスケジュール

■事業スケジュール

民間活力を導入する場合に想定される事業スケジュールは、以下のとおりである。



5.整備手法・運営体制の検討

■整備手法の検討

事業の効率性や業務負担、質の確保、スケジュール、財政負担などの視点で効果や課題を検証し、以下から最適な手法を採用する。

- ①直営方式
- ②PFI-BTO／RO方式
- ③DBO方式
- ④DB+O方式

■運営体制の基本方針

- ①管理運営上、適切な人材・人員や予算を措置する
- ②外部委託の活用等により業務を効率化する
- ③専門分野やマネジメントの研修、教育に取り組む

■想定される運営体制

以下に想定される管理運営体制について、基本計画以降に具体的な検討に取り組む。
なお、②③の場合でも学芸業務については市の直営にすることも想定される。

- ①市の直営による運営
- ②指定管理者による運営
- ③PFI方式で民間事業者による運営